

# 危険物倉庫の新增設が活発化

新規参入、運送会社の業容拡大も

危険物倉庫の新增設が活発化している。コロナ禍でのアルコール消毒液の流通拡大や脱炭素社会に向けたリチウム電池の保管需要増大も背景に、危険物倉庫への新規参入や運送業者が業容拡大の一環として危険物倉庫を拡充するケースもみられる。

(掲載は社名50音順、巻末79・80ページに一覧表)

## 小野運送店

### 千葉県東金で危険物倉庫4棟を新設

危険物輸送で長年の実績を持つ小野運送店(本社・東京都品川区、小野正彦社長)は今年2月、千葉県東金市の千葉営業所近接地に「九十九里倉庫」として危険物倉庫4棟を開設した。

各棟の倉庫面積は約5000㎡で、敷地面積は約5000㎡。消防法危険物第4類第1〜4石油類に対応する。全棟に5mの庇を備えて荷降ろし作業の品

質・効率向上と従業員の作業負担軽減につなげるほか、庫内は平置きをベースに多様な荷姿の貨物を柔軟に取り扱える仕様とした。

近隣地域にも配慮し、入庫車両が営業所に面する道路の通行を妨げないよう、敷地内の車両動線をL字型に確保してトラックが切り返せる設計とした。さらに、九十九里倉庫の周辺では



九十九里倉庫の外観

内製化を図るとともに、荷主企業の需要に応じて定温管理倉庫や毒劇物倉庫といった高付加価値物流サービスの提供を検討していく。

同所に続き、5月には茨城県小美玉市で「東茨城営業所」をオープン。2000㎡の敷地に配送センター約350㎡、常温

一般倉庫170㎡、危険物一般取扱所約70㎡を構え、危険物輸送の積替え拠点としても活用していく。

今後は、栃木県でも危険物倉庫と一般品倉庫を併設する営業所の新設を計画。1〜2万㎡の建設用地を取得し、一般品倉庫3000㎡と、総面積1000

㎡以上の危険物倉庫を開設する予定にある。同県内では18年に増床した「市貝営業所」(市貝町)の危険物倉庫約600㎡と一般品倉庫約1000㎡がすでに満床状態にあることから増設を検討。一般品倉庫では梱包などの流通加工業務にも対応したい考えだ。